

令和3年度第1回伊勢市社会教育委員兼公民館運営審議会委員会議 会議録

- 1 日 時 令和3年6月17日(木) 15時30分～17時00分
- 2 場 所 小俣総合支所3階大研修室
- 3 出席者 委員
- 寺田 厚 (伊勢地区医師会)
 - 北河 新松 (伊勢文化サークル協会)
 - 岡村 昭 (伊勢市小中学校長会)
 - 竜田 和代 (伊勢市女性団体連絡協議会)
 - 御村 聡美 (伊勢市PTA連合会)
 - 辻井 幹人 (連合三重伊勢志摩地域協議会)
 - 山本 麻里 (伊勢市文化協会)
 - 田中 信光 (伊勢市青少年育成市民会議)
 - 川口 京子 (伊勢市スポーツ推進委員連絡協議会)
 - 安田 悦子 (学識経験者)

事務局

- 鈴木 光代 (伊勢市教育委員会事務局事務部長)
- 山口 真司 (社会教育課長)
- 増田 研一郎 (文化政策課長)
- 沖塚 孝久 (スポーツ課長)
- 阿部 暖 (社会教育課課長補佐兼係長)
- 山本 実咲 (社会教育課主事)

4 概 要

- (1) あいさつ (伊勢市教育委員会事務局事務部長 鈴木 光代)
- (2) 委員紹介、委嘱状交付
- (3) 報告事項
 - 令和2年度社会教育関係事業の実績及び
 - 令和3年度社会教育関係事業の事業計画について

質疑応答

委員	令和2年度報告と令和3年度計画で同じ文章が使われている。そして、報告なのに「～に取り組みます」はおかしいのではないかと。 また、スポーツ課のインクルーシブスポーツとは何か。
スポーツ課長	インクルーシブはみんなを一緒に含んでという意味。現在、障がい者スポーツの推進に取り組んでいるが、健常者のスポーツ・障がい者のスポーツを区別するのもどうかと。インクルーシブスポーツは、ボッチャのように同じ土俵で戦いゲームを楽しむスポーツのこと。
委員	文化政策課の主な取り組みに「～を開催します」と書かれているが、今年は

	開催するという意味か。実績報告にも「開催します」とあるのはどういうことか。計画ならわかるが。
社会教育課長	資料については、教育振興基本計画という 5 か年計画から、数値目標や現状と課題、主な取り組み、主な事務事業を引用している。
委員	長期計画をここで述べているということだと思うが、そういうことであれば、該当部分に「長期計画として」という文言があるとわかりやすい。
社会教育課長	施策名・現状と課題・主な取り組みについては、長期計画に基づく内容を記載している。それを受けてどのような事業をしたかについては、主な事務事業に記載している。ご質問いただいた主な取り組みは取組目標にあたるもの。
委員	来年度の資料は記載を変えてほしい。
事務部長	わかりやすい記載にさせていただく。
委員	文化政策課の今年度の事業について、文化祭など観客を入れて実施する場合、10 月になると状況も変わっているかもしれないが、ガイドラインに沿って十分な対策をとっていただきたい。
委員	現在、観光文化会館は収容可能人数の 100%を入れられるようになっているが、主催者側が気を遣っている。
文化政策課長	ガイドラインで 100%入れられるとなっている公演内容であれば、そのように対応している。大きな声を出すようなものは制限が強くなる。
委員	以前の会議では、図書館には非接触体温計もないという話であったが、今はどうか。
社会教育課長	サーモカメラで検温し、手指を消毒し、来館者カードを書いて入館していただいている。他の施設と同じかたちである。
委員	返却された本は消毒しているのか。すぐに本棚に戻すのか。1 週間程置いておくのはいかがか。
社会教育課長	汚れがひどい場合は拭くが、特別な消毒はしていない。本棚に戻す日数に決まりはないがすぐには戻していない。現状、返却から書架に戻すまでの日数で十分間隔がとれている。
委員	文化政策課の内容について、実績報告と計画で同じ内容が記載されている。また、昼河古墳について進展がない。皆さんが見学に来られるように国道や県道など主要な部分に案内板が設置されると良いのでは。また記載をわかりやすくしてもらいたい。
文化政策課長	記載については、全体的に修正を検討する。案内板等の表示については、内容も踏まえ、今後の案内板の整備事業の中で対応を検討していきたい。
委員	文化財の調査員は何人いるのか。
文化政策課長	現在、発掘調査に携われる職員は課に 3 人いる。年間を通じ、工事や試掘調

	査に立ち会っている。
委員	市には神宮もあり、古墳などもあると思う。それらは観光資源としても必要となってくると思うので、ぜひ調査しながら頑張ってもらいたい。
委員	司書の先生は伊勢市内のすべての小中学校に定期的に来てくれているのか。
社会教育課長	学校の図書館については、図書館司書が何校かに1人で来ていただいている。また、伊勢図書館と小俣図書館から学校に出向き読み聞かせをしている。
委員	学区内に伊勢図書館や小俣図書館がある子は行くことができるが、そうでない子は学校の図書館で本を借りることが多いと思う。地域差が出ているのでは。小学校の図書館は春休みに本の貸し出しができない。親としては春休みは宿題もなく、本を借りておいでと言うが、子どもから借りられないと聞いた。子どもたちが本を読める機会であるので、仕組みを変えていけたら。
社会教育課長	子ども読書活動の推進についての課題をお聞かせいただいた。学校図書については、学校での取り組みであるので、ご意見をお伝えさせていただく。
委員	ご指摘のとおり、夏休み前と冬休み前は一人何冊と決め、学校の本を持って帰って読んでもらう取り組みを行っている。春休みについては、次年度の学年への準備ということで、本を持ち帰らせる取り組みは行っていない学校が多いのではないかと。本校も行っていない。どちらかというところ、一年間使った道具をきれいにするとか、次年度の準備をする期間。 また、学校司書の件については、司書教諭は各学校に配置されているわけではないと思うが、職員の中には司書の免許を持っている人もいるので、そういった職員を中心に読書活動の推進をしている。 今年度、小中学校は一人一台タブレットが配付され、それを活用していく初年度にあたる。目標としては9月度を目途に6時間ある勉強の中で4時間は使うこととしている。これを聞くと本離れが進むのではないかとご心配を持たれる保護者の方がみえるかもしれないが、一方で、朝、学校へ来たら最初の10分間はみんな静かに本を読むという活動もあわせて実施している。いろいろな子どもたちが取り組まないといけないことが出てきているが、バランスよく進めていきたい。
社会教育課長	地域差があるというご意見については、図書館分室が市内に13ある。
委員	分室はあるが、本の数がちがう。子どもが小さいころは連れて行って本を借りさせていたが、子どもが大きくなってくると親も忙しくなり学校の図書館を利用してねとなる。司書の先生がとても熱心に工夫してくれているが、学校の建物中で図書館が教室から離れていると結局子どもが行かない。せっかくたくさん本があるので、これから建てる学校は、普段子どもが通る場所に図書館を作るなど立地を検討してほしい。

	子どもたちは入学後すぐに図書館の使い方を教わるらしいが、たった1時間の中で、貸し借りの仕方を教えてもらうだけで、実際に本を手取る時間がないと聞く。実際に手取る時間がとれると子どもも興味を持つ。小学校から読書習慣をつけないと思う。
事務部長	分室も、皆さんに読んでいただけるよう取り組んでいるので、PRなどを考えていかないといけない。また、今年4月からみなと小学校が開校した。図書室ではなく廊下の一角にメディアスペースを作っている。これからの学校は、わざわざ図書室に行かないといけないものではなくなっていくと思う。
委員	本当は社会教育指導主事もここに来てアドバイスしていただかないといけない。教育委員会の中で一人いればいいし、伊勢市教育委員会にも一人いるが、ここには来ていない。 いせトピアやハートプラザみそのが12月までワクチン接種会場となったため、文化サークル協会御菌支部の文化祭ができない。スポーツ課には施設係があるが、社会教育課は施設担当がいるだけ。それを施設係とし、年間計画で修繕を行い調整していくべき。

(4) その他

委員	今回、社会教育委員になって、初めて社会教育という言葉を知った。自分たちのスポーツ推進委員としての中だけの活動だったので、こういう幅広い関係を把握していなかったが、私たちが今取り組んでいる障がい者スポーツに関しても、社会教育の一環であるかなと少し見えてきた。今後取り組みを推進していくのに、何かを立ち上げることは難しいかもしれないが、このまま皆さんの意見を聞かせていただきながら、一緒に取り組んでいきたい。
----	--